

州政府の基準を満たし、より快適な障害児施設に生まれ変わりました。

～ノッサセニョーラダグロリア特殊児童学校改修増改築計画～

日本の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」により、ミナスジェライス州パッサテンポ市のノッサセニョーラダグロリア特殊児童学校に対し、施設の改善と拡張のための資金271,848.39レアル（約982万円相当）が供与され、この度その改修工事が完了、2015年6月22日、同校前の広場にて供与式が行われました。

式典には、在リオデジャネイロ総領事館より山元毅総領事、ジルダ・デ・ロウルデス・レゼンデ・マルコスAPAEパッサテンポ会長、マリア・ダス・ドーレス・モレイラ・イ・モライス同校校長、パッサテンポ市長、ミナス州政府関係者、在ベロオリゾンテ名誉総領事事務所、学校教職員及び生徒、地域住民の方々など多数の方が出席しました。



ノッサセニョーラダグロリア特殊児童学校改修増改築計画とは

パッサテンポ市はミナスジェライス州の南西部(州都ベロ・オリゾンテ市の南西約150km)に位置し、人口は約8千人の小都市です。

ノッサセニョーラダグロリア特殊児童学校は、非営利団体「APAEパッサテンポ」が経営する特殊学校であり、知的・身体障害者の学校教育、身体的精神的治療、リハビリ、職業訓練活動等を実施しています。

当時、校舎は老朽化が進んでいた他、障害者に適した設備や教室の配置が不十分であり、州政府の基準を満たしていませんでした。また、食堂は吹き抜けのオープンスペースのために雨の日や強風の日には食事が非常に困難であったり、洗濯場やごみ置き場がなかったりなど、施設利用者に不便を来している箇所が少なからずありました。

このため我が国は、必要な教室の増設を行うとともに、老朽化したトイレの補修、その他上記の施設の改修工事を支援することとしました。同学校は、パッサテンポ市と周辺の

市の中で唯一の障害児施設であり、施設への入居を希望している方は多くいます。今回の改修工事により、よりきめ細かいサービスが期待されるのみならず、施設が拡張されたことにより、このような待機児童のさらなる受け入れも期待されます。

